

ばんたね ネットワーク

発行年月日 平成14年11月1日 URL <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

編集・発行 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院・医療連携強化委員会 乾 和郎

〒454-8509 名古屋市市中川区尾頭橋3-6-10 電話 代表 (052) 321-8171 医療連携センター (052) 323-5726

巻頭の挨拶

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院

副院長 芳野 純治



病診連携システムを始めてから早くも1年余りが過ぎました。ご承知のように当院は藤田保健衛生大学の分院であり、大学として学生教育、研究、診療を行う場ですが、地域に密着した第一線病院としての役割を今後共担していくつもりです。学生教育においても地域に密着することの重要性を強調し、本院とは異なる医療の立場にあり、第一線病院のあるべき姿を理解させています。お陰様でご紹介率は徐々に上昇してきており、少しずつですが役割を果たしてきているようです。しかし、十分な成果を上げていないことも痛感しており、切齒扼腕しております。この地域の方々に便利で質の高い医療を行い、診療所と病院が固く手を結ぶ本来の姿にすることができればと願っております。さらに、可能な限り逆紹介を十分に行うべく努力もしております。現在のところ担当する事務職員の人員が十分でなく、先生方にご満足いただけるような機能を果たしていない点があり特にご迷惑をおかけしていると思って

おります。本システムの大要は①外来診察予約、②報告書、③検査予約、④入院時の対応などから成っていますが、これらのあるべき姿を求めべく努力しておりますので今後更なるご助力、ご協力をお願いいたします。

さて、本年6月8日に第2回病診連携委員会が開催されました。その折りに、出席者の方々より多数の貴重な提言をいただきました。まとめてみますと、駐車場の問題、夜間診療の問題、システムの運用自体の問題などがありました。これらについては以前より検討を重ねておりましたが、藤田保健衛生大学の分院として、当院だけでは解決できないこともあります。出来るだけ早く解決してご迷惑のかわらないように努力しています。一方、このような場を通じて直接ご意見を伺うことが病院全体の意識の向上に大いに役立ちました。これからも、直接あるいは間接的でもご意見を伝えていただければと願っております。それらを診療に反映させると共に、

一つ一つを課題として解決を計りたいと思っています。

当院は藤田保健衛生大学として、研究面でも色々な活動をしています。新しい高度の医療を発信しつつ出来るだけ早く定着させるよう努力しております。さらに、本院からも診療の助力を受けつつ質の高い医療をめざしています。病診連携とこれらをうまく運用し、「坂文種報徳會病院」型の病診連携を模索していければとも考えています。

さて、本年11月16日(土)に病診連携の講演会を予定しております。当院の外科と呼吸器内科が担当する予定です。その折りには是非ご出席を賜りご意見を伺えればと楽しみにしております。

今後共、更なるご助力、ご助言をいただけますようお願い申し上げます。

診療科紹介④

呼吸器内科



【歴史・概要】

平成2年1月より第2教育病院に呼吸器内科教室が新設されました。名古屋市の基幹病院として患者様の人権と生命の尊厳を尊重した質の高い医療を提供すべく日夜努力しています。呼吸器疾患をはじめ内科疾患全般にわたって診療、指導、研究を行い病診連携の先生方のご要望に応じられるよう努めています。

【構成員】

教授立川壮一、助教授堀口高彦以下、講師2名、助手3名、大学院生3名を含め10名が在籍しています。

【外来診療】

当教室では新患外来を月曜日（志賀 守講師）、水曜日（近藤りえ子講師）で担当しております。それ以外の曜日にも常に2診で外来業務を行っています。

【診断・治療】

診断は胸部単純X線写真、ヘリカルCT、高分解能CT、3次元CTなどの画像検査をはじめ気管支鏡（肺生検、気管支肺泡洗浄など）検査、胸水貯留疾患における局所麻酔下の胸腔鏡検査、透視下肺生検、CT下肺生検、超音波下肺生検などによる病理診断、また呼吸不全や慢性咳嗽に対する呼吸機能検査や気道過敏性検査、さらにアスピリン喘息や近年のペットブームを反映して増加傾向にある



ペットによる気管支喘息に対する吸入負荷試験などを実施しています。また各種の血清マーカーの研究も同時に行い肺癌の早期診断や経過観察、予後判定をはじめ気管支喘息のアレルギー性炎症の活動性の評価、びまん性肺疾患の診断や活動性の評価、予後判定に活用しています。

治療では肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全、肺炎、胸膜疾患、びまん性肺疾患、職業性肺疾患などを主疾患とし、特に不可逆性の慢性低酸素血症の患者様には積極的に非侵襲的陽圧人工呼吸（

NPPV）も含めた在宅酸素療法を導入しています。

さらには世界的にも喫煙による疾患の増加が問題となっており、当教室でも毎月1回（第4水曜日 pm4:00～5:00 当院第3会議室）で開催しておりますのでどうぞお気軽に御参加、御紹介いただきましたら幸いです。

以上、当教室を簡単に紹介させていただきました。諸先生方のご希望にお応え出来るよう医局員一同研鑽を積んでまいりますので今後もご指導ご鞭撻よろしく願います。



局所麻酔下胸腔鏡検査：フレキシブルな気管支鏡を胸腔内に挿入し、内腔を観察後胸膜生検を行っている。

診療科紹介⑤

小児科

経緯

第 2 教育病院の小児科は平成 12 年 4 月に半講座となり、平成 14 年 4 月、宇理須厚雄助教授（平成 7 年 10 月、藤田保健衛生大学第 1 教育病院小児科学講座から配置転換）の教授昇任と同時に、講座外部門として昇格いたしました。それまでは、矢崎雄彦先生（現、藤田保健衛生大学名誉教授）、平成 10 年からは浅野喜造先生（現、藤田保健衛生大学小児科教授）が第 2 教育病院小児科の所属長も兼任しておりました。

平成 12 年末には待望の外来新棟が増築され、小児科外来診察室も同棟 2 階に移転、3 階には狭いながら医局も完成し、診療のみならず、研究、教育面においても少しずつ充実して参りました。さらに平成 13 年 5 月には病床総数が 499 床に増床され、病棟再編成に伴い、小児混合病棟（小児内科系 20 床、小児外科系 18 床）が完成、小児医療の効率化と質の向上に大きく貢献し、現在に至ります。

スタッフ

教授 宇理須厚雄（日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会指導医・専門医）
 助教授 須賀定雄（日本小児科学会専門医）
 助手 松山温子
 医師 藪田憲治
 医師 徳田玲子（日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会認定医）
 講師 諸岡正史（日本小児科学会専門医）
 客員助手 鈴木卓哉

外来診療は月曜日から土曜日までで、一般外来は午前中 2 診、午後は専門外来に当て、月曜日は腎臓疾患（諸岡正史講師）、火曜日は予防接種（須賀定雄助教授、藪田憲治医師）、木曜



日はアレルギー疾患（宇理須厚雄教授、徳田玲子医師）、金曜日は乳児健診（松山温子助手）を実施しています。原則として、乳児健診と予防接種外来は予約制で行っています。患者様により正確な情報を伝えて頂くために、一般診療を含め、腎臓外来、アレルギー外来も紹介状を持参して頂きます。

診断・治療

大学附属病院としての特殊機能を果たすために、小児科一般診療以外にも、アレルギー疾患、膠原病、感染症、神経疾患、腎疾患などを中心に専門医療を実施しています。

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー性疾患では、食物経口負荷試験、運動負荷試験、吸入誘発試験、皮膚テスト（食物、金属、薬剤、吸入性抗原に対するプリックテスト、パッチテスト）などの検査を行っています。各種検査によって正確な診断、病状の把握へと導くことが可能となります。食物経口負荷試験は食物アレルギーに対する最も信頼性の高い検査法の 1 つで、原因食物の証明、耐性獲得の確認、除去

食物の決定などに有用です。

また栄養士による食物アレルギー、肥満、腎疾患、糖尿病の食事療法や離乳食に関する栄養指導を行っております。

さらに、アレルギー患児に対する予防接種も積極的に実施し、一般診療外来で敬遠されがちな麻疹ワクチンやインフルエンザワクチンなどの鶏卵関連ワクチンの接種、接種要注意者に対する予防接種などにも対応しています。BCG、ポリオワクチンを除く、定期予防接種（接種対象年齢枠内であれば、名古屋市在住者は無料）、ムンプス、水痘、インフルエンザ、B 型肝炎ワクチンなどの各種任意接種が可能です。

その他、各種臓器 CT、MRI、脳波、腎盂造影、膀胱造影、心臓超音波などの検査も受けることができます。



診療科紹介⑥

眼科

【常勤医師名】

馬嶋 清如 教授 (眼科専門医)

犬塚 裕子 助手 (眼科専門医)

桐淵 恵嗣 助手 (眼科専門医)

糸永 興一郎 助手

【非常勤医師名】

新美 勝彦 客員教授

佐藤 幸裕 客員教授

野村 隆康 客員講師

【業務内容】

一般検査

超音波検査・角膜内皮細胞検査・網膜電位図・眼球運動検査

特殊検査, 治療

網膜, 虹彩の光凝固・Lens opacimeterによる水晶体の観察 (アトピー白内障, 放射線白内障の早期診断)・表層, 全層の角膜移植術・白内障の小切開無縫合白内障手術・硝子体手術・前眼部, 中間透光体, 眼底の各疾患に対する治療が可能である。

【教室の特色】

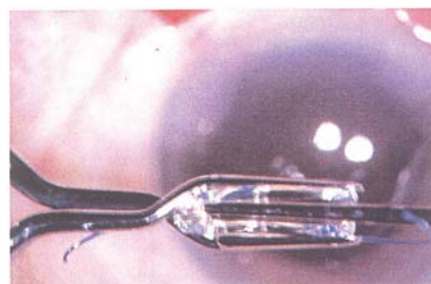
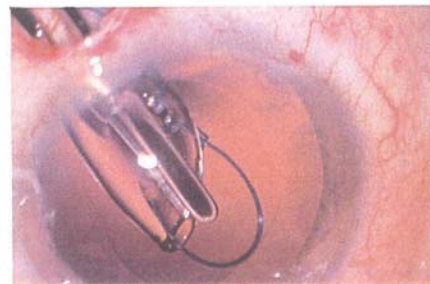
白内障, 緑内障, 角膜疾患など, 前眼部疾患を中心に, 高血圧, 糖尿病など全身疾患の眼底病変で受診される方が多いのが特徴です。平成11年度から, 角膜疾患の治療として角膜移植術も行っており, 白内障の成因, 治療, また角膜疾患の治療については基礎, 臨床の両観点から研究を行っております。特に白内障に関しては国内外の学会発表, また論文報告も行っており, アトピー白内障の発症については, その原因となる遺伝子と分子生物学の見地から検索し, また臨牀的にどのような因子がアトピー白内障の発症に関与しているのかについても, 調査を行っております。そして現在の白内障の手術では, 混濁した白内障水晶体を摘出後, 水晶体の代用となる眼内レンズ (人工水晶体) を挿入するのが一般的となっ



ていますが, 材質, 形状の違いから眼内レンズも数種あり, この眼内レンズの臨床知見だけでなく基礎的知見も豊富なため, 各症例に対して最適な眼内レンズの選択が可能です。また, 手術の選択は, 術後の日常生活への適応などを配慮して行うなど, 患者の方のニーズに合わせた地道な治療を常に心掛けています。そして, 今年度より網膜硝子体疾患

への対応をより十分なものにするため, 日本大学板橋病院の佐藤幸裕助教授を客員教授としてお招きし, あらゆる網膜硝子体疾患に対応できる準備が整い, この分野に関する最先端の治療 (主に手術療法) も行っていく予定であります。

☆外来受診者は一日平均130人, 入院患者手術件数は月平均45件。



(小切開創無縫合白内障手術の実際)

看護部

当院看護部は、本年度、愛知県の委託を受けまして「他病院看護職員の資質向上のための研修受け入れモデル事業」を行っています。

愛知県から示されましたこのモデル事業は、「院内教育実施病院が開催する研修会に院内教育実施困難な近隣病院に勤務する看護職員が参加し、看護に必要な新しい知識・技術を得ることにより、地域における看護・医療のレベルアップを図るとともに看護職員の継続教育に関する啓発活

動を行う」という目的です。

私どもは普段交流のない他の病院、あるいは地域の看護職の方々とともに触れ合うことや、現在行っている看護を振り返るための学習機会になるのではないかとということでお引き受けいたしました。また、当院看護部が例年取り組んでいる実態をご覧いただき、皆様方からもっといい方法や内容を教えていただきたいと思います。皆様方に満足していただける研修には至らないかも知れませんが、皆様と一緒に学習する機会であればと願っています。今後も皆様のお力添えをいただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく

お願いいたします。

今後のご案内はすでに各施設長様宛に発送済ですが、参加ご希望の方はご連絡ください。

対象：愛知県名古屋市熱田区・北区・中区・中川区・中村区・西区・港区の看護職員

期間：平成14年9月1日～12月31日

場所：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院内

12月7日京都大学教授 福原先生の講演会は名進研ビルで行います。
看護部長 山田静子

教育プログラム

日 程			テ ー マ	講 師
9月26日	木	15:00～17:00	「救急時への対応法」基礎編 患者急変時の対応策は万全ですか？	当院医師 黒川 陽一
10月2日	水	15:00～17:00	「救急時への対応法」演習編 A班 患者急変時の対応策は万全ですか？	当院看護副部長 近藤八恵美
10月4日	金	15:00～17:00	「救急時への対応法」演習編 B班 患者急変時の対応策は万全ですか？	臨床看護科長 金岡 哲二 他
10月16日	水	15:00～17:00	事例を通して看護事故への問題意識を共有しませんか？	当院看護部長 山田 静子
10月24日	木	15:00～17:00	間違いだらけの褥創ケアを行っていませんか？	WOCナース 尾見亜希子先生
10月30日	水	15:00～17:00	E B Mに基づいた感染対策とはどういうことでしょうか？	川合 紀子先生
11月8日	金	15:00～17:00	在宅介護者への支援をいっしょに考えませんか？	岐阜大学教授 伊藤 孝治先生
11月16日	土	13:30～17:00	院内看護研究発表会	当院看護部全員
11月21日	木	15:00～17:00	一人で悩んでいる患者さんもいるのではないのでしょうか、尿失禁を！	WOCナース 永坂 和子先生
12月4日	水	15:00～17:00	診療記録・看護記録はなぜ必要でしょうか？	当院看護部長 山田 静子
12月7日	土	15:00～17:00	患者のQ O L を考えた看護評価	京都大学教授医学博士 福原 俊一先生

薬 劑 部

話題の新薬

セロトニン作動薬とスマトリプタン(イミグラン®)

片頭痛の発作時の治療薬として、従来のエルゴタミン製剤に加え、受容体選択性を持つセロトニン作動性薬剤であるスマトリプタン(イミグラン®)などのトリプタン系薬剤が、今後、中等度以上の片頭痛発作時の治療法の第一選択となるものと考えられる。

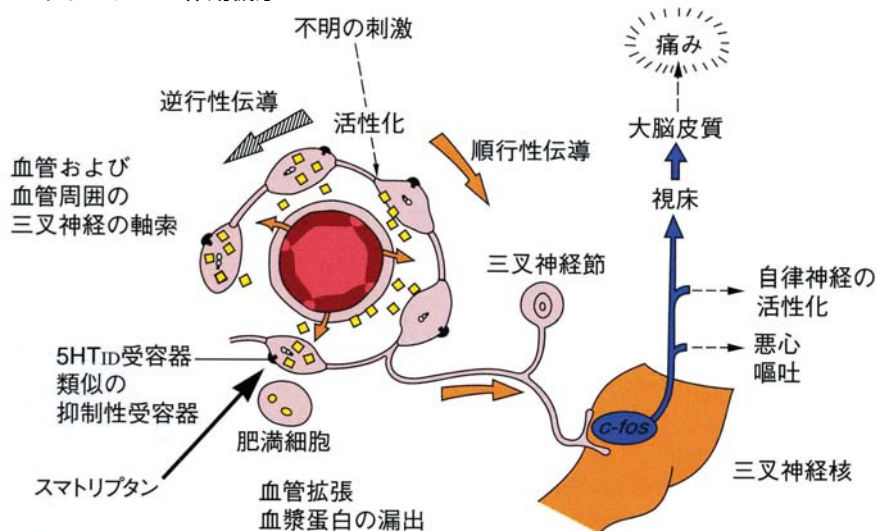
セロトニン

(5-hydroxytryptamine, 5-HT) 受容体のサブタイプの中で、5-HT_{1B/1D}は脳血管系に優位に存在し、この受容体の活性化は脳血管の収縮に関与している。スマトリプタンは、選択的にこの受容体のアゴニストとして作用し、頭部血管に強力な血管収縮作用を発現する。さらに、三叉神経終末に存在する5-HT_{1D}受容体を介して、三叉神経に存在する化学伝達物質の1つであるCGRP(calcitonin gene-related peptide)の放出抑制作用も有している。

スマトリプタンの臨床

スマトリプタンには、錠剤、皮下注射、点鼻剤、坐剤といった多くの製剤がある。(※現在、日本で使用できる製剤は、錠剤〔50mg〕と皮下注射〔3mg〕) 経口では、1回50mgが至適用量とされ、50mg投与2時間後では59%に有効性が示されている。皮下注射剤では、78.9%の有効性が認められ、効果が確実に作用発現も迅速でもあるが、本邦では自己注射が認められていないので、実際の使用上不便である。本剤の効果の特徴は、片頭痛発作の急性期に服用するエルゴタミン製剤とは異なり、発作の前期～後期のいずれの時期に投与しても有効性が期待できる。また、悪心や光過敏ある

スマトリプタンの作用機序



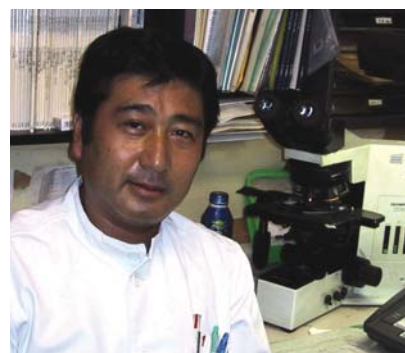
いは音過敏などの片頭痛に伴う不快症状も和らげる作用も有している。概して安全な薬剤であるが、胸痛などの循環器系の副作用が問題で、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、脳血管障害、コントロールされていない高血圧などの既往・合併がある場合は使用禁忌であり、高血圧患者や40才以上で虚血性心疾患の危険因子を有する患者にたいしては、十分な注意が必要である。(表-1) スマトリプタンにより片頭痛患者のQOLの向上が期待されている。しかしながら、欧米では使用頻度が著しく、過剰に、かつ安易に使用されすぎているとの警告もあり、発作時のみ頓用の適正使用が重要であることは言うまでもないことである。

(表-1)

スマトリプタン(イミグラン®) 投与時のチェックリスト

- 過敏症、心筋梗塞の既往歴
- 脳血管障害・一過性脳虚血性発作の既往
- 虚血性心疾患・異型狭心症・抹消血管障害
- コントロール不良の高血圧
- 妊婦・授乳婦・小児(安全性が確立していない)
- エルゴタミンとその類似薬を24時間以内に服用
- SSRI(ルボックス®)服用(併用注意)

病 理 部



病理部の体制

当院は499床で、病理部は臨床検査部とは別個の中央部門として独立し、1名の病理医(堀部 良宗 助教授 病理学会認定医、臨床細胞学会指導医)と2名の検査技師(1名は細胞検査士)が病理解剖、組織診断および細胞診断業務にあたっている。

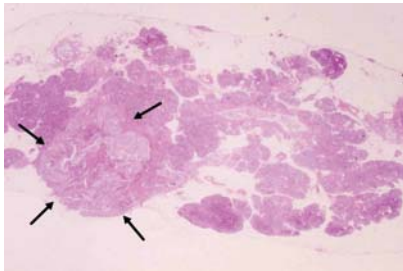
剖検:年間10数例の病理解剖を施行しているが、剖検率の減少は全国的傾向で、剖検率引き上げのため、病理部では他施設からの依頼解剖を含め24時間体制で剖検業務に当たっている。院内CPCは院内独自で行っていないが、剖検された症例は各科臨床医と交えて死因検討会を開いている。

生検:年間約3500例の組織診断検体数で、1名の病理医によって最終診断されているが、問題例や難解例などは本学病理部および病理学教室の

スタッフと意見交換し、また各臨床科とのカンファランスにより病理診断の精度管理をしている。また診断困難例は全国の優れた病理専門医にコンサルテーションを依頼し、免疫組織化学的検索、電顕的検索などを加え診断の向上に努めている。術中迅速診断は臨床科の要望に応じて随時受け付けている。

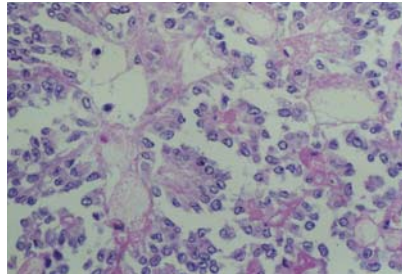
細胞診：年間約 4000 例で、すべての検体数について陰性例、偽陽性および陽性例はダブルチェックをし、見落とさないように努めている。

病理標本および細胞診のプレパレートの貸し出し、病理・細胞診報告書の開示：病理部では病理検体・細胞検体はすべて患者さんのものと判断しているため、他施設にセカンドオピニオンを求める際には標本の貸し出しや報告書のコピーを主治医を介して渡している。また剖検例についても遺族からの依頼があれば主治医の同意と立ち会いのもとで遺族、家族に病理解剖組織診断を説明している。



(脾偶発腫瘍)

剖検でみられた脾臓の偶発腫瘍 (solid-pseudopapillary tumor, SPT) 腫瘍は 8mm 大で微小サイズの SPT は極めてまれである。



(組織学的所見)

腫瘍細胞は円形の小型好酸性細胞からなる充実性腫瘍で、間質は毛細血管性である。

医療連携センター

医療連携センターからのお知らせ

平成 14 年 9 月 11 日現在、当院の病診連携システムにご登録いただいている先生は 227 名です。そのうち名古屋市医師会の病診連携システムの先生は 150 名になっています。さらに多くの先生方にご登録いただけるよう努力していきたいと思っております。第 2 回診連携システム運営協議会

運営協議会は年 1 回、開催することになっていますが、本年は 6 月 8 日 (土)、午後 2 時から 3 時に行われました。登録医代表の奥村満磨先生 (中川区)、江崎正則先生 (中区)、井土一博先生 (熱田区) には大変貴重なご意見をいただき、今後の病院運営に生かしていきたいと存じます。人事異動などにより本年度の会の構成

は以下のようになっています。

委員長：松本純夫 (院長)、副委員長：浅野多一先生 (中川区医師会)、芳野純治 (副院長)

登録医代表委員：奥村満磨先生 (中川区医師会)、江崎正則先生 (中区医師会)、寺島洋治先生 (中川区医師会)、井土一博先生 (熱田区医師会)、福田巖先生 (南区医師会)、永井昭之介先生 (港区医師会)

病院代表委員：乾 和郎 (内科 助教授)、鈴木啓一郎 (外科 助教授)、寺田信樹 (整形外科 助教授)、宇理須厚雄 (小児科 教授)、馬嶋清如 (眼科 教授)

セミナー開催のお知らせ

第 2 回病診連携セミナーを来る平成 14 年 11 月 16 日 (土)、午後 3 時から 5 時半の予定で名古屋駅近くのホテルサンルート名古屋にて開催いたします。今回のセミナーは外科と呼吸器内科が担当致します。また、医師会から水谷病院院長の水谷武彦先生に「医師会の IT 化と病診連携」についてご講演いただく予定です。多くの先生方にお集まりいただけると幸いです。

編集後記

やっと長かった夏が終わりました。これからはホットな議論を戦わせる学会シーズンの始まりです。ところで 11 月に第 2 回病診連携セミナー・学術講演会を開かせていただきます。私どもの病院における医療の現状をお話させていただき、登録医の先生方に少しでもお役に立てればと念じております。是非お出かけいただきご意見をお聞かせいただければ幸いです。(乾 和郎)

「ばんたねネットワーク」編集委員

乾 和郎 (委員長・消化器内科)	須賀 定雄 (小児科)	伊藤 裕安 (検査部)
鈴木啓一郎 (外科)	尾関 克明 (薬剤部)	片方 昭男 (放射線科)
寺田 信樹 (整形外科)	入江 理加 (看護部手術室)	三羽 洋人 (管理部)
馬嶋 清如 (眼科)	山中 愛子 (看護部 6 A)	櫻井 麗子 (管理部)

外来診療医師表

診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
 休診日 土曜日午後・日曜日・祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)
 総長の日(6月11日)・開学記念日(10月10日)

平成14年10月1日 現在

は予約制になっておりますので詳しくは各科外来までお問い合わせ下さい。

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	AM 呼吸器	志賀(新患) 佐々木 坂野	立川 近藤	近藤(リ)(新患) 伊藤(友) 石橋	堀口 佐々木	立川 志賀	堀口 廣瀬
	AM 消化器	乾 小林 三浦	若林(新患) 高田 服部(信) 加藤(芳)	三好 奥嶋 度会	乾(新患) 芳野 中村	小林 永田 小田	芳野(新患) 若林 三好 神谷
	AM 専門					澤井(内分泌) 早川(内分泌)	
	PM	山本(神経内科) ※月1回	野倉(神経内科)		小松(膠原病) 浅野(膠原病)		
循環器科	AM	安保	渡邊 古田	横井	安保 近藤(貴)	渡邊(新患) 古田	井波 柿澤
精神科	PM		楠				
小児科	AM	宇理須 敷田	須賀 鈴木(卓)	宇理須 松山	須賀 敷田	須賀 各務	宇理須 松山
	PM	諸岡(腎臓)	須賀(予防接種) 敷田(予防接種)		宇理須(7/11)* 松山(7/11)*	松山(乳児検診) 各務(乳児検診)	
外科	AM	松本 鈴木 水野(有)	梅本 林	川辺 永田	鈴木 小林	水野(義) 加納	梅本(1週) (小林) 水野(義)(2週) 川辺(3週) 永田(4週) 加納(5週)
	PM	松本 山口		渡邊(3月1回)	坂野(1・3・5週)		
形成外科	AM	米田		米田		米田	
脳神経外科	AM	尾内	岩田	尾内	尾内	岩田	尾内(2・4週) 岩田(1・3・5週)
	PM						
整形外科	AM	伊藤(雅) 鈴木(匡)	鷺見(大) 鈴木(匡) 鷺見(雄)	寺田 杉本 伊藤(雅)	寺田 鷺見(雄) 松岡	鷺見(大) 松岡 加藤(慎)	杉本 森島
	PM		山田		安藤(月1回) 山路		
	AM リハビリ	楠戸		楠戸	楠戸		
皮膚科	AM	竹内	竹内 加藤(正)	飯田 加藤(正)	竹内	加藤(正)	竹内 長島
泌尿器科	AM	泉谷 樋口	泉谷	樋口	泉谷	樋口	泉谷
	PM		白木(2・4週)				
産婦人科	AM	中沢 関谷	中沢 山口	関谷 丹羽	中沢 山口	丹羽 山口	関谷 丹羽
	PM	山口(不妊)	渡邊(不妊) 丹羽(東洋・腫瘍)	中沢(不妊) ・自律神経)	丹羽(不妊・東洋 ・腫瘍)	関谷(不妊)	
眼科	AM	馬嶋 糸永 波木	馬嶋 桐渕 犬塚 新美(1・3週)	糸永 桐渕 犬塚 佐藤(2・4週)	桐渕 犬塚 波木	馬嶋 犬塚 糸永 波木	桐渕 糸永 犬塚
耳鼻咽喉科	AM	八木澤 西村(洋) 長谷川 藤澤	西村(忠) 西村(洋) 秋田	鈴木(賢) 服部(親) 米倉 大森(1週) 岡本(2週) 岩永(3週) 徳田(2・4週)	澤田(達) 川勝 服部(親) 服部(寛) 森島(2週)	八木澤 服部(寛) 澤田(健)	早野 澤田(健) 加藤(一)
麻酔科	AM	鈴木(義)	河西	川瀬	河西	湯澤	笹原(1週) 木村(2週) 湯澤(3週) 鈴木(義)(4週) 川瀬(5週)
	PM		河西				

初診予約について

当院では、外来診療を円滑に行なう為に、予約制を行なっている科があります。
 患者様を紹介していただく場合、外来診察表で予約を行なっているかを確認して頂き、予め電話予約をしていただけるようお願い致します。
 尚、その際に簡単な患者様の情報をお伝え下さいますと待ち時間の短縮が可能となりますので御協力をお願い致します。